流域情報マップ 中間報告

4回までの 市民意見交換会で出された情報、評価

（内容は参加者から寄せられた意見です）

- 庄内川・土岐川のじまんの名所・景勝地
- ● よい所、残したい所
- ○ 課題と思われる所
- ★ 市民活動拠点
- ■ 歴史的な場所

虎渓山・永保寺わき（竜浮淵／りょうぶえん）

虎渓山・永保寺わき
山を背景に川が蛇行し、岸辺には特有な岩肌が見られる風光明媚な場所。永保寺本殿は国宝で、庭も有名。

和合橋
川幅が狭く上流が浸水しやすかったが、工事により広げた。

浅野緑地
国の護岸等の整備工事に伴い、多自然川づくりの整備を行っている。

神明橋、永久橋
国の災害対策事業として橋桁を上げる工事中。

化石掘りのできる河原
化石館の体験フィールド。

白狐温泉
豊かな緑を背景に、岩や渕がつくる渓谷美と変化のある流れが楽しめる。

白狐温泉

夕立山

夕立山（源流）

瑞浪市

「水辺の楽校」事業
隣接する学校や漁協等が参加し、体験プログラムを実施。今後、親水護岸や魚道の整備などが予定されている。

川と酒蔵の町並み

三共橋
右岸が浸水しやすい。肥田川合流点近く、生物層が豊か。

小里川ダム
観光地化の計画があるが、水質悪化が心配。

小里川
流量が豊富。上流に陶器工場があり、現在も白い排水を流すことがある。

多治見市

弁天池
庄内川から虎渓用水で水を引き、この池で3つの用水に分けていた。

古虎渓・天ヶ橋
渓谷美により名所となった場所。赤い橋が映える。

土岐川観察館★

ネズミ岩
昔は大岩があって、子どもの遊び拠点だった。今は割れて分散している。

笠原

土岐市

国長橋～陶都橋の護岸
護岸整備がされ遊歩道ができたが自然度が低い。左岸の桜並木は残った。

玉野堰周辺（渓谷美）

玉野堰堤
魚が遡上できない。

定光寺・城嶺橋
渓谷美により名所となった場所。灯籠のある高欄に特徴。

定光寺

大留橋
木の欄干の残る橋。今後の保存が課題。

ビオトープ
生態系保全の実験地。市民参加で保全している。

神明上条用水堰
魚道はあるが、管理の問題で冬は閉じられ魚が遡上できない

尾張旭市

守山区

堤防道路により川に近づけない
下流域、矢田川などの堤防のかなりの部分が道路であり、大型車両がスピードをあげて通るので、危なくて川に近づくことができない。

松並木

洗堰～合瀬川と大山川の合流
越流堤のかさ上げ工事が進行中。新川との水の配分が課題。工事で桜並木の伐採が予定されている。

ふれあい橋（自転車・歩行者専用橋）
橋からの眺めがよく、夕日がきれい。

八田川合流点
工場などの排水が流れ込むポイント。

愛岐処分場
水質への影響が心配。

内津川合流点
（熊野桜佐地区）遊水機能を持つ農地。霞堤のなごりが残る。区画整理計画が進行中。

鹿乗橋（伝説）

春日井市

春日井市市民農園
河川敷利用。一部雑然とした所もある。

五条川
3500本余の桜並木。生物層が豊か。

師勝町

豊山町

小田井遊水地（庄内緑地）
生物の豊かな公園。

洗堰

枇杷島青果市場跡

西枇杷島
東海豪雨で浸水。護岸や防災拠点を整備中。

北区

矢田川

西区

西枇杷島町

東区

大治町

千種区

名東区

長久手町

万場の渡し跡

新川

横井山緑地
桜の名所。

庄内用水
通水停止時の魚溜まりの機能が課題。

黒川（堀川）
都市の水辺づくりに向け、水量増加の要望が高まっている。

黒川樋門
庄内元杁樋門
黒川（堀川）、御用水、庄内用水の樋門。黒川樋門は文化財。かつてはここに「天然プール」と呼ばれる貯水池があり、水を用水に分けていた。

才井戸流（さいどながれ）
湧き水が流れる水路。湿地帯や樹林が残る。周辺の区画整理事業により環境が悪化してる。

ボートの練習場
親水性が課題。

中川区

松並木（左岸）
樹齢100年～200年の松62本。保存の声が多いが、交通量、堤防補強との調整が課題。

ヨシ原（下流域）
利用されなくなり保全が困難に。防災、水質、生態系などへの影響が心配。

藤前干潟
全国有数の渡り鳥の飛来地（特別保護区）。ヨシ原のゴミが課題。

★ 多治見市 土岐川観察館
多治見市が、土岐川のビジターセンターとして設置。市民団体が運営に関わり、活動拠点にもなっている。年間を通じ、多彩な体験プログラムを実施。

市民意見交換会 今後の進め方

今後はテーマ別のグループで、提案づくりに取り組む予定です。

多様な生態系を育む環境、きれいな川をつくろう
- 豊かな生き物環境をつくる。
- ゴミをなくし、水質を改善する。

土岐川庄内川の原風景、歴史資源、用水をいかそう
- ふるさとの川の風景を大事にする。
- 歴史資源を活かす。
- 用水の再生・活用を考える。
- 土岐川特有の川の恵みを活かす。

豊かな川体験を伝えたい、憩いの場をつくりたい
- 豊かな思い出をつくる川（川と人の関わりの豊かさ）をとり戻す。
- 遊歩道や施設の整備を考える。

流域全体、地域参加で治水・防災を考えよう
- 流域全体で治水をとらえる。
- 治水防災への参画協働の推進。

2回の川歩きで、流域全体が見えてきました。

2回の川歩きでは、のべ51名の参加者が、グループに分かれて流域全体を見て歩きました。
感想としては、「上流、下流の市民が、知らない川の姿を見ることができた」「お互いの課題を知ることができた」「知らない同士がグループになって話ができてよかった」など、視野が広がったという意見が多かったようです。
今後も、まだ見ていないところ、テーマ別に掘り下げて見たいところなど、積極的に歩きたいと話し合っています。

魚道をみんなで点検（神明上条用水堰）